

# 令和7年度 福井県立嶺南東特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
<b>学び   教育課程・ 学習支援</b>	<p>○個々の重点課題を踏まえ、「学びの地図」を活用し、学習指導要領のねらいに即した3つの観点に沿って指導計画を立て、実践、評価する。 【目標】指導計画作成・達成指数80%以上</p>	<p>教職員の評価は、AB合わせて99%で目標を達成することができた。しかし、A、Bの内訳はA45%、B54%となっており、昨年度よりA評価が増加したもののB評価が上回った。今後、A評価の割合をさらに高めていくための対策を考えていく必要がある。また、わずかであるが、C評価（1%）があり、その理由としては、「子どもの実態把握が不十分だった」とのことであった。日々子どもたちの変化を捉え、教員間の連携を深め、随時計画を見直ししながら実践を進めていく必要がある。</p>	<p>関係者と連携を取りながら、実態把握をより細かく行い、その実態に基づいて個々の重点課題を立てていくようにする。指導計画においては、その重点課題を踏まえ、「学びの地図」のねらいに即して立てていく。実践していく過程で、子供の実態は変化していくので、随時関係者と連携を取りながら見直しをしていくよう周知する。 「学びの地図」は本校独自のものであるため、引き続き新任、転任の先生方へは、年度初めに個別の指導計画作成についての研修を行う。加えて実態把握の方法についても説明していく。</p>
	<p>○幼児児童生徒の成長や課題を適切に評価し、その情報を教師間で共有することに努める。保護者の在り方を工夫し、保護者に学びに向かう姿や成長、課題をより分かりやすく伝える。 また、保護者のニーズに応じた情報の提供を行う。 【目標】保護者の教育活動満足度指数80%以上</p>	<p>教職員の評価は、AB合わせて98%で目標を達成することができた。A、Bの内訳はA65%、B33%であり、昨年度よりA評価が増加した。しかし、C評価（2%）があり、その理由としては、「教師間で情報共有がうまくいかなかった」「子どもの成長や課題を適切に評価することが難しかった」とのことだった。教師間の話し合いの場を増やし、より細かな情報共有が必要と思われる。保護者の満足度としては、A、B合わせて100%であり、具体的取り組みの目標を達成することができていたと考えられる。昨年度、要望として上がっていた情報の提供（個別）についても、一定の成果があったと考えられる。</p>	<p>・評価については、教師間の連携を密にし、より細かな情報の共有を行ったうえで実施し、その結果を踏まえて、連絡帳や保護者会などで幼児児童生徒の様子を保護者へ丁寧に伝えていく。 ・保護者の在り方については、今年度同様、事前に保護者に向けて保護者会の大まかな内容を伝え、それ以外に話題にあげてほしいことや質問を聞くようにし、幼児児童生徒一人一人に応じた情報提供や丁寧な説明を行うよう心掛ける。</p>
<b>学び 2 研究・ 研修</b>	<p>○子どもの学びを読み取りながら、子ども達が自ら考えたり発信したりする授業・活動づくりを実践する。 ○授業研究を活性化し、教師が学び合う環境の構築に努める。 【目標】取組達成指数80%以上</p>	<p>教職員の目標指数はA37%、B62%、AB合計で99%となり目標を大きく上回る結果となった。今年度の研究は、昨年度までのテーマをベースにサブテーマのみを変更して行った。今までの研究活動をベースに児童生徒が自ら考え発信する授業づくりを各学部研究会で協議し、学部の特長や児童生徒の実態に合わせた授業づくりについての話し合いを行った。その内容が充実していたことが今回の結果から読み取れると考える。保護者の満足度指数はA59%、B40%、AB合計で99%となり、保護者から本校の授業・活動づくりに対して満足していただけていることが分かる。少数ではあるが、もっと教科学習を取り入れてほしいという意見もあったので、学校で行っている学習活動の意義や授業づくりで大切にしていることを保護者に分かりやすく伝えていくことが大切であると考えられる。</p>	<p>・引き続き各学部研究会で行っている研究活動を充実させ、それぞれの授業・活動づくりにつながる取組を行っていく。 ・保護者に向けては、日々の連絡帳や懇談、授業参観等で児童生徒への支援や成長の様子を分かりやすく伝えるように工夫や配慮をする。</p>

# 令和7年度 福井県立嶺南東特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
学び 3 情報管理	<p>○主に個人情報の取り扱いやインターネット・SNSなどの危険性について、教職員や児童生徒に対する研修を進め、保護者への情報提供を図る。 【目標】情報セキュリティ遵守指数100%</p>	<p>教職員の評価はA68%、B31%でAB合わせて99%であった。100%に近い数値であり教職員のセキュリティ意識が高いことが伺えるが目標にしていた100%には届かなかった。理由としてC評価が1件あり『校外学習の際、店員や店舗の利用者が写真に写りこんでしまった。許可を取らずに撮影したのもあるため』ということであった。C評価ではあるが、セキュリティに関して遵守しようとする意識が高まっている成果ととらえることができる。 保護者の評価はA59%、B40%、合わせて99%であり、目標であった90%を超え、本校における情報の取扱いに対しおおむね満足しているという回答を得られた。しかし、本校の情報の取り扱いについて不安を感じているという意見も1件あり、すべての保護者が安心して子どもを預けられるよう早急に対策が必要である。</p>	<p>教職員に対しては、従来通り年度初めや夏季休業中の校内研修等で児童生徒の重要な情報を取り扱っていること、校外学習等で写真を撮影する際に気を付けることなどを改めて周知し、セキュリティの遵守に努めてもらう。加えて、今回保護者から厳しい意見をいただいたことも伝え、教職員の言動や学校の配布物、HPなどに対し厳しい目を向けられていることを改めて認識してもらう。また、保護者に対しても参観日や体育大会で撮影した画像・動画データの取り扱いに十分にご配慮いただけるように注意喚起を行い、啓発を進めていくことで、学校関係者全員でセキュリティ意識の向上を図っていく。</p>
	<p>○幼児児童生徒の興味・関心に繋がるアプリや、障がい・特性に応じた周辺機器などの更なる充実を図る。また、情報機器を活用した取組や教材についてできるだけデータとして残し、互いに共有・活用できる環境を整える。 【目標】授業・校務等への活用指数80%以上</p>	<p>アプリや周辺機器を活用する項目に対してはA19%、B78%でAB合わせて97%となり目標の80%を超え、児童生徒の実態に合わせてアプリや周辺機器を活用しようとする姿勢が伺える。しかし、A評価がB評価よりもかなり低い水準であり、自信をもってICTの活用をしていると回答している教師が少ないことが伺える。またC評価と答えた件数も2件あり、操作が難しい児童生徒に対してどのように活用すればよいか悩むという意見が見られた。 今年度新しく設定した授業づくりで使用・作成したデータを共有・活用という項目においてはA44%、B54%、AB合わせて99%で目標の80%を上回ることができた。しかし、C評価も1件あり『個人でデータを管理していた』という意見であった。</p>	<p>情報機器を活用することに苦手意識を抱いている教職員が多いため、今後も、研修や情報管理などにより情報機器を活用した取組や教材について情報を発信する。 情報の共有については、教員用情報端末の変更により保存の仕方や保存場所が変わったため周知が難しいことがあった。年度末に向け作成したデータを共有ファイルに移動・保存するように声かけし、年度始めには、新転任者に研修を行いデータの共有化をより徹底していきたい。</p>
学び 4 寄宿舎	<p>○寄宿舎生が主体的に生活できる環境を整え、個々の発達段階に応じて将来に繋がる生活スキルを身に付ける支援を行う。 【目標】生活スキル向上満足度指数90%以上</p>	<p>指導員の評価はAB合わせて93%で目標を達成することができた。グループや舍務会議で話し合いを重ねることによって共通理解のもと継続した支援に繋げることができたと思われる。ただC評価があり、より詳しい情報が分かるとさらに充実した支援が行えるのではないかとこの意見があった。各学部との情報共有をより丁寧に行う必要があると考える。</p>	<p>次年度も個々の実態に応じた目標設定を行い、将来に繋げるための支援を行っていく。より丁寧に実態把握をするために各学部と連携を図り、支援に活かすための必要な情報を共有する。またそれに合わせて、子どもが自分で考え選択できる場面を増やし、主体性を育てる環境づくりを行う。</p>
	<p>○保護者や各学部と共通理解を図り、将来に繋がる支援を目指す。 【目標】寄宿舎生保護者の満足度指数90%以上</p>	<p>教職員の評価はAB合わせて98%、保護者は95%で目標を達成することができた。各学部や家庭との学舎連絡会や保護者懇談会、連絡帳を通して情報を共有し、支援に繋げることができたと考えられる。保護者からの寄宿舎参観アンケートでは「寄宿舎で学んだことが家でもできるようになった」などの回答があった。ただ保護者の中にはC評価が2名おり、「家庭では活かされていない」「環境が変わると行動も変わるのでやむを得ない」などの回答があった。支援方法やその伝え方について工夫していく必要がある。</p>	<p>引き続き学校や保護者と連携を密に取り、共通理解のもと子ども達の支援を行っていく。家庭との連携については、家庭生活での実態や困り感などの情報収集を丁寧に行う。また、家庭でも実践しやすい具体的な支援方法を共有し、寄宿舎で身に付いた生活習慣やスキルが家庭でも定着できるように支援する。</p>

# 令和7年度 福井県立嶺南東特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
安心・安全な生活  5 児童生徒支援	<p>○学校行事を通してやりがいや楽しみ、挑戦する気持ちを育てる。 【目標】いきいき・やりがい指数90%以上</p>	<p>教職員の評価は、AB合わせて98%で目標を達成することができた。立場によって学校行事への携わり方が変わるものの、それぞれの視点から積極的に日々の学習支援を進めた結果、体育大会や学習発表会などで子ども達が生き生きと活動する姿に繋がったことがうかがえた。</p> <p>保護者の評価は、AB合わせて99%で目標を達成することができた。子ども達の状況は様々だが、家庭でも学校行事へのやる気を感じたり、本番での姿から達成感や充実感を感じたりする場面が多くあったと考えられた。</p> <p>今後も子ども達の実態に合わせ、学校行事に向けて元気に楽しく活動できる方法を考え、実践していく必要がある。</p>	<p>教師と保護者がより適切に連携できるように、学校行事に関する情報を速やかに分かりやすく連絡する。また、子ども達それぞれの実態に応じて活躍できる場が提供できるように、行事ごとの反省を生かし、次年度に繋げ、よりよい学校行事となるように努める。</p>
	<p>○幼児児童生徒の状況を丁寧に把握し、保護者との情報交換を密にすることで、家庭と学校で連携して子どもの成長・発達を促す。 【目標】安心・連携指数90%以上</p>	<p>教職員の評価は、AB合わせて99%で目標を達成することができた。子ども達の成長や発達はそれぞれで違い、実態を把握する難しさはあるが、一人一人の状況を正確に知るためにクラスだけでなく学部全体で情報共有することができていたと考えられる。そしてその実態把握を元に、日々家庭との連携を深めてきたこともうかがえた。また、保護者の評価からも考えられることは、今後も家庭と学校が協力して子どもの心と体の成長や発達に寄り添い、日々の学習に最大限取り組める形を模索し、提案・実践していくことが必要である。</p>	<p>生活支援・いじめ対策委員会での情報交換を確実にに行い、子ども達の状況について学部を越えて共有し、今後の支援について考える。支援の際には複数の目で実態を把握し、いろいろな角度から対応できるようにクラスや学部で環境を整える。</p>
安心・安全な生活  6 保健・安全管理	<p>○場面や状況に応じた感染症対策が適切に行われるよう幼児児童生徒の衛生指導に取り組み、感染防止に努める。 【目標】感染症対策充実度指数85%以上</p>	<p>教職員の評価はA64%、B36%の合計100%、保護者の評価はA56%、B42%の合計98%と目標を達成することができた。手洗いなど感染防止に努めてきた成果であると思われる。ただし、保護者の評価ではC・Dがともに1%ずつあり、マスク着用に関する意見が複数あるなど、感染症対策に対する不満や不安を感じている方もおられることが伺える。今後も保護者の方々と連携を取りながら、感染症について必要な情報を引き続き発信していきたい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症は落ち着いているものの、一定数の罹患者が見られる。また今年度は早い時期からインフルエンザ感染者も見られた。マスク着用や咳エチケットに関することなど、引き続き必要な感染症対策に取り組み感染予防に努めていく。感染症に関する情報の発信については保健だよりへの掲載や保護者あてのメールなどを通して、必要な内容を必要な時期に発信する。</p>
	<p>○安全点検や避難訓練、防災・防犯研修等を通して危機管理に対する意識を高め、より安全な生活を送ることができる環境を整える。 【目標】環境整備充実度指数85%以上</p>	<p>教職員の評価はA67%、B33%、保護者の評価はA62%、B38%と、いずれもAB合わせて100%と目標を達成することができた。避難訓練や防犯研修では、教職員が危機管理意識を高くもって対応方法を学び指導に当たることができた。しかし、訓練時や研修時以外の日常の中では十分でないことも考えられる。これからは学校生活全般で子ども達の安全に対する意識を高めていくことが課題となる。</p>	<p>全国で地震や土砂災害・大規模火災などが頻発しており、本地域が被災地となることも十分に考えられる。災害に対する心構えを普段から幼児児童生徒にもたせられるように、避難訓練を計画的に実施し、もしもの時に安全に避難できる力を養う。また、日々の生活の中でも安全に対する意識が高まるような様々な災害への対応について指導していく。職員研修については最新の知見などを取り入れながら実施し、教職員の危機管理意識をさらに高めて普段の指導に当たることができるようになる。また、引き続きホームページに訓練や研修の内容を掲載し、保護者の理解を深める。</p>

# 令和7年度 福井県立嶺南東特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
家庭や地域社会とのつながり 7 進路支援	<p>○幼児児童生徒の卒業後を見据え、各事業所から聞き取った「今から取り組んでほしいことや身に付けてほしい力」を活用した支援を行う。</p> <p>【目標】卒業後を見据えた支援満足度指数80%以上</p>	<p>教職員の評価は、AB合わせて96%、保護者の評価はAB合わせて97%で目標を達成することができた。内訳は教職員はA38%、B58%、保護者はAは49%、B48%であった。いずれも昨年度よりA評価が増えているため、今年度行った「今から取り組んでほしいことや身に付けてほしい力」の改定や実践例の紹介などの取り組みに一定の成果があったと思われる。今後も「今から取り組んでほしいことや身に付けてほしい力」を活用し、学部間・学校家庭間で一貫した支援を継続するため、「十分できた」の数値をさらに引き上げることが課題である。一方でCD評価もあり、その理由は「知らなかった」や「余裕がなかった」とのことであった。今後も「今から取り組んでほしいことや身に付けてほしい力」の周知や活用例の提示が課題である。</p>	<p>「今から取り組んでほしいことや身に付けてほしい力」の周知を行うとともに活用例を提示する。進路だよりや保護者会などの機会を通じて、「今から取り組んでほしいことや身に付けてほしい力」に関する各学部や家庭での実践例を共有できるようにする。</p>
	<p>○将来の生活へ関心・意欲が高まるような進路に関する情報提供を行う。</p> <p>【目標】情報提供満足度80%以上</p>	<p>教職員の評価はAB合わせて96%、保護者の評価はAB合わせて99%で目標を達成することができた。教職員に対しては、研修会の開催や進路の手引きの発行、進路支援部からの情報提供などを行った。成長段階に応じて将来の生活へ向けて関心・意欲が高まるよう、さらなる取組の継続が必要である。保護者に対しては、保護者懇談、施設訪問研修、研修会、研修動画の配信などを通して情報提供を行った。施設訪問研修に参加した保護者からは「作業内容を詳しく見学できた」「現状やらなければいけないことなども見えてきた」「これからの目標にもつながった」などの意見があった。</p>	<p>一般企業や福祉施設に関する情報を、施設訪問研修や進路研修会、卒業生と語る会、保護者懇談、進路の手引き、進路だよりなどを通して提供する。教職員の研修の機会を充実させるため、これまで保護者を対象として行っていた施設訪問研修に教職員も参加できるように検討する。保護者懇談などの機会に保護者が気軽に進路情報を得ることができるような取組を行う。</p>
家庭や地域社会とのつながり 8 PTA・交流	<p>○社会の状況を考慮しつつ、幼児児童生徒の特性や保護者のニーズに合った、参加しやすいPTA行事の充実を図る。</p> <p>【目標】保護者のPTA活動満足度指数80%以上</p>	<p>教職員のABの割合は、95%で目標を達成することができた。PTA活動に対してある程度周知はされているが、PTA行事への関わり方が難しいと感じている教職員もいることが分かった。引き続きPTA行事について配布物や校内メッセージで周知して教職員の意識を高め、行事に参加する幼児児童生徒が楽しみにする言葉がけをしたり、教職員自身が作品展に足を運んだりするように働きかけたい。</p> <p>保護者の評価は昨年度の100%から98%となった。記述がなかったため理由は分からないが、今後も家族で参加して楽しめる行事や保護者が関心をもっているテーマの研修会を企画し、連絡メールを利用して行事について分かりやすく伝えていきたい。</p>	<p>引き続き全教職員に対し、PTAの行事や広報誌などの情報を確実に伝え、それぞれが関心をもって参加・協力できるように努める。</p> <p>PTA行事については、社会の状況を考慮しつつ、幼児児童生徒や保護者が安心して参加し楽しめたり、幼児児童生徒の将来について考えたりできるような行事を企画し、各行事について保護者へ分かりやすく丁寧に伝える。</p> <p>また、今後も役員会や委員会を保護者懇談会と同日に行うことができるよう配慮するなど、保護者が負担感なくPTA活動に参加できるように努める。</p>
	<p>○居住他校交流や学校間交流において間接交流を含めた実施方法の工夫をし、有意義な交流活動を行う。</p> <p>【目標】幼児児童生徒の交流及び同学習満足度指数80%以上</p>	<p>教職員のABの割合は、昨年度の96%を上まわり99%となった。交流活動の内容を丁寧に伝えることで、学校間交流や居住他校交流により交流活動を身近に感じやすい幼小学部の教職員だけでなく、中学部や高等部の教職員にも、理解がすすんだと考える。</p> <p>保護者の評価は100%となった。昨年度の反省を生かして「交流だより」を発行したことで、中学部、高等部の保護者にも生徒の交流の様子を分かっていたことができたと考えられる。</p>	<p>交流及び共同学習について理解を保護者の方々に深めていただくために、入学説明会などにおいてその意義を丁寧に伝えていくようにする。</p> <p>教職員には交流活動の内容を周知したうえで、その機会を生かし幼児児童生徒が有意義な活動ができるよう計画をしていく。</p> <p>次年度も交流学習後に連絡帳や学級通信などで交流の様子を保護者に伝えてもらうよう各学部へ依頼したり、「交流だより」を発行したりして今後も活動内容をより分かりやすく伝えられるよう努める。</p>

# 令和7年度 福井県立嶺南東特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
家庭や地域社会とのつながり 教育相談	○幼児児童生徒の実態を多方面から把握し、支援目標や内容を適切に設定して個に応じた支援を連携して行う。 【目標】個別の教育支援計画目標達成指数90%以上	教職員の評価は、AB合わせて99%あり、目標を上まわる結果が得られた。幼児児童生徒の実態を的確に把握することで、必要な関係機関や外部専門家、校内会議などを活用し、効果的な情報交換や連携を行うことで一人一人に応じた支援ができたと考ええる。しかし、A評価よりもB評価の教職員の割合の方が上回っており、全員が支援の連携に対して十分に満足しているわけではない。また、「関係機関との連携が難しかった」といったC判断の意見もあった。教職員間（担任副担任間・授業者間・学部間）での十分な情報共有、日々関係機関との関わりがある訪問部における連携の仕方など、どのように支援の連携を図るべきか検討していく必要がある。	関係機関や外部専門家には、機会をみて学校側から積極的に働きかけ、話し合いや情報共有の場をもつ。また、担任やクラスで把握した実態や支援方法は、学年間や授業者間、学部間で必ず共有し、共通理解した上で統一した支援をしていく。
	○地域における特別支援教育のセンター的機能の充実を図るため、ニーズを聞き取り、困り感に寄り添った支援を行う。 【目標】巡回相談満足度指数90%以上	教育相談担当者の評価は100%で目標を上まわる結果が得られた。また、巡回相談先からも「巡回相談において、丁寧な行動観察による幼児児童生徒の様子や実態、特性などの情報提供を受けることができたか」「巡回相談において十分な話し合いをもち、適宜支援を受けながら、具体的な支援方法や進路選択に必要な情報を得ることができたか」の項目ともに、目標指数AB合わせて100%の結果を得た。記述内容からは「支援の必要な児童に寄り添った適切なアドバイスを聞くことができ、大変助かった」「進路選択時に必要な力や具体的な支援方法について、教員だけでなく、保護者にも伝えてもらえたので助かった」などの高評価が多かった。このことから、センター的機能を十分に果たし、一人一人の困り感に寄り添った専門的な情報を提供できたと考ええる。意見の中には、一部、「できれば定期的に回って見てほしい」「発達検査をしてもらえると嬉しい」などの意見があり、巡回相談の活用の仕方を正しく理解されていない点があった。	今後も丁寧な行動観察及び情報提供、面談を行い、幼児児童生徒や保護者、担当教員の困り感に寄り添った支援を行っていく。難しい事例の場合には、相談部に持ち帰り、様々な視点から検討することでよりよい支援方法を探っていく。また、相談部員自身が、日々多くの教職員や関係機関と連携し、様々な事例に対応できるよう研究と修養に励む。 さらに巡回相談については、派遣依頼を出していただければ必要に応じて相談に行くことが可能なこと、また、発達検査に関しては、相談部の仕事として行っていないことを周知していただく。そのうえで、教育相談を活用していただき、実態を把握、整理したうえで、検査の必要性も含め、それぞれに応じたサポートと一緒に考えていくことを伝えていく。正しく理解していただくために、年度初めの各地区のブロック研究会では、引き続き教育相談の内容や流れを丁寧に伝えていく。